

## 平成 31 年 3 月 27 日 統合型リゾート（IR）説明会

「IR 制度の概要及び IR 導入の効果と影響」

有限責任監査法人パートナー 仁木和彦氏

### 質疑応答

#### 【質問】

- ・デメリットをあまり話していない。ギャンブル依存症の人やその家族の人と話したことがあると思うがその感想は。

#### 【回答】

- ・依存症の人と直接話したことはないが、対策をしている人と話したことはある。日本の一番の問題は、ギャンブル依存症が認識されていないこと。

#### 【質問】

- ・今の話では、とても中立とは言えない。メリットとデメリットの話をして中立。ギャンブル依存症の方がいて、本人も家族も苦しんでいる。
- ・一番僕らが心配していることはそこだが、その話をされない。負い目を感じないのか
- ・最後まで説明会に参加しないことは無責任。最後まで付き合っ欲しい。

#### 【市長】

- ・我々がお願いした講師で 8 時 30 分までという契約でお願いしている。そのようなお願いされても厳しいので、御理解をお願いしたい。

#### 【回答】

- ・今回の立場は、法律に基づいた説明をさせてもらうことで 8 時 30 分までとしている。

#### 【質問】

- ・カジノができて、この地域の人々が依存症になるイメージが湧かない。
- ・依存症の人が外から来て、地域に徘徊し、泥棒をするなど治安の問題が気になる。その対策を聞きたい。

#### 【回答】

- ・周辺の社会的な影響として検討されている。周辺に質屋を置けないことなどが決まっている。
- ・具体的なケースは、自治体と事業者がどのような対策をするかを今後決めていく。
- ・法律では決まっていないが、その計画を含めて、優れている 3 カ所が選定されることになる。
- ・法律上は十分な対応ができない事業であるとなると設置が認められない。

#### 【質問】

- ・展示場、ホテルの広さなどが決められているが、牧之原市で具体的に実現することができるのか

**【回答】**

- ・具体的な事業計画は、先ほど話した内容。牧之原市、静岡県は首都圏に近く、交通アクセスも良い環境のため、国が出している環境は十分達成できると思う。

**【質問】**

- ・ハウステンボスやシーガイアなども同じようなコンセプトで建てられている。建物が大きいと、建てたが施設の運営（ランニングコスト）ができないものがある。
- ・そのようにならないか

**【回答】**

- ・それらには共通した問題があり、民間投資ではなく、リゾート法により自治体主導で建てられた経緯がある。自治体主導だと事業採算性より箱物中心になる。
- ・今回は民間が最終責任を負い、公的保証や税金は一切入らない。
- ・事業者も破産する恐れがあり、無理な計画は立てないと思う。

**【質問】**

- ・今日の会合は回覧板で回って来なくて、議員から聞いて知った。大事なことなので全員に知る権利がある。緊急を要してやることであるか。
- ・牧之原市に、どのようにして IR をつくるのか私には理解できない。
- ・既に対策委員長として楠田さんなどが決まり、市が予算を組んでいるようだが、全国で3つしか選ばれない中で、お金をたくさん使って、実現しないと非常に寂しい。
- ・市になり、相良の名を使わなくなった。田沼意次がいたら IR はとても許さないと思う。牧之原市は、県外にアピールするという良いチャンスのため IR に手を上げたと聞いた。
- ・ビックリするようなことをするなら、子どもの意見を聞いたらいいいと思う。

**【市長】** …第2部 意見交換会内で回答

- ・平成30年度も、平成31年度予算にも市には IR 関連の予算はない。市民が勉強するための予算はとる。招致委員会はボランティアで活動しており、市から費用は出ていない。
- ・IR は民間事業であり、市の負担はないが、社会インフラ等の整備は市が行う。
- ・この地域に投資をしようという事業者がなかったらただの絵空事になるが、日本最高レベルのホテルや展示場等の IR 施設をここに作りたいという事業者がいる。
- ・雇用対策にも経済対策にもなるし、商工会、中小企業家同友会、榛南 J C の皆さん等、多くの若い皆さんがこれからのまちづくりを真剣に考えてくれている。
- ・IR について門前払いするのではなく、しっかり議論すべきだと考える。

**【質問】**

- ・カジノの3%で IR の6~8割の収益を稼ぐというビジネスモデル。アジア諸国の IR は軒並み状況が悪いと聞いた。日本型の秘策があるのではないかとはい思う。
- ・中国人が来てくれればいいが、おそらく日本人からお金を取ることになる。それなら、足立区の金持ちから取った方がいい。それなら牧之原市でいいのかと思う。
- ・カジノには ATM を置かないということだが、IR にも ATM を置かないのか。カジノ自体が

貸付をしたり、ついでギャンブルさせたりはしないか。

- ・1週間に3回制限というが、24時間を何日間に割って利用することができるか
- ・週に3日いたら依存症と思うが、依存症の人は自分のことを依存症とっていない。病人として認識しない中で、IRを進めることは逆ではないかと思う。

【回答】

- ・3%は6~7割というものであるが、ラスベガスでは半分以下という状況。
- ・事業者の事業計画によって差がある。一律で日本のIRはこういうものとは言えない。
- ・依存症のデータは、厚労省がデータを取っている。ギャンブル等依存症対策法の中で正確な数字が発表されていくと聞いている。

【質問】

- ・依存症対策の順番が逆と思うがどうか。

【回答】

- ・ギャンブル依存症法案に関しては、今あるパチンコを含めた公営ギャンブルに対するもので、これまでない対策を始めたということ、IRはその後に加わってくるとしている。

【質問】

- ・ギャンブル依存症を増やさないためには、IRをやらないことが一番ではないか。

【回答】

- ・そのような意見もあると思う。依存症の人の話を含めて、国会で議論されてできた法律であり、私はその法律を紹介する立場である。

【質問】

- ・大阪の例で言えば、4,800億円の売上を3%のカジノで稼ぐというと凄い。
- ・相良のパチンコ屋が100件できる、静岡競輪が10個できるようなイメージでいいか。川口オートの入場者1,000人で売上が600万円。川口オートが1,000個できるイメージ。

【回答】

- ・川口オートのことは存じてないので、答えられない。
- ・パチンコ屋といっても規模も違うのは、お答えできない。本格的に検討するなら、どのような事業計画をつくるのかということ。

【質問】

- ・例えばで良いので言ってほしい。そこで毎日ダービーが行われているというイメージだと分かりやすい。

【回答】

- ・IRは、日本にない施設のため、ダービーやパチンコとの比較はしていないし、分からない。海外の事例を引用している。
- ・シンガポールのマリーナベイサンズと同じようなものができる。

【質問】

- ・シンガポールに行ったことないので分からない。